



## 2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年11月1日

上場会社名 TOA株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 6809 URL <https://www.toa.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 竹内 一弘  
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 吉田 圭吾 (TEL) (078) 303-5620  
 四半期報告書提出予定日 2022年11月14日 配当支払開始予定日 2022年12月2日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第2四半期の連結業績 (2022年4月1日～2022年9月30日)

(1) 連結経営成績 (累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	20,307	7.2	45	△93.9	456	△44.4	629	36.6
2022年3月期第2四半期	18,937	7.2	748	—	822	—	460	—

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 2,450百万円 (8.1%) 2022年3月期第2四半期 2,267百万円 (297.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	19.32	—
2022年3月期第2四半期	14.15	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	63,065	48,939	73.4
2022年3月期	60,688	46,939	73.7

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 46,281百万円 2022年3月期 44,720百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	10.00	—	10.00	20.00
2023年3月期	—	20.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2022年3月期配当金の内訳 安定配当20円

2023年3月期配当金(予想)につきましては、2022年5月2日に「2022年3月期決算短信」にて公表したとおり、安定配当40円に業績を加味して、連結配当性向45%を目安に決定いたします。

### 3. 2023年3月期の連結業績予想 (2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	44,000	7.7	2,900	34.3	3,000	24.6	2,250	53.4	69.46

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当社は2022年11月1日開催の取締役会において、自己株式の取得について決議いたしました。連結業績予想の「1株当たり当期純利益」については、当該自己株式の取得の影響を考慮しております。なお、当該自己株式の取得については、「自己株式の取得及び自己株式立会外買付取引 (ToSTNeT-3) による自己株式の買付け並びに自己株式の消却に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2023年3月期2Q	34,536,635株	2022年3月期	34,536,635株
2023年3月期2Q	1,970,502株	2022年3月期	1,990,647株
2023年3月期2Q	32,552,711株	2022年3月期2Q	32,528,522株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、予想数値と異なる場合があります。
- ・当社は、2022年11月25日に機関投資家向け決算説明会 (動画ライブ配信) を開催する予定です。なお、決算説明動画および当日使用する決算説明資料は開催後に速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書 .....	5
四半期連結包括利益計算書 .....	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	8
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く環境は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のワクチン普及や行動制限の緩和などにより社会経済活動の正常化が進むものの、原油や天然ガス、鋼材、半導体などの原材料価格の高騰や輸送コストの上昇、ウクライナ情勢の長期化をはじめとする地政学的リスクの高まりに加え、為替相場における急速な円安など、世界経済の先行きについては依然として不透明な状況が続いております。

このような環境の下、当社グループでは企業価値である「Smiles for the Public ——人々が笑顔になれる社会をつくる——」の実現に向け、2030年を見据えた経営ビジョンとして、「Dr. Sound ——社会の音を良くするプロフェッショナル集団——になる」を掲げております。お客さまに選ばれる良い音体験の継続的提供を通じ、社会課題の特定、解決、改善の一連のサイクルをお客さまと共に実現してゆく頼れるパートナーとして、人々の安心・信頼・感動の価値実現を目指しております。

具体的には、お客さまと多様な接点で価値提供を実現する「つながるビジネス」の確立に向け、機器異常への早期対応と設備の一元管理で放送の安定稼働をサポートする「リモートメンテナンスサービス」の提供に加え、ネットワーク上のさまざまなシステムと連携し、IoTセンサーやAIによるセンシングと連携した自動放送を行うことができる「IPオーディオシリーズ」を拡充し発売しました。さらに、新たな価値の提供に向けて地方公共団体や異業種との連携を深め、音や映像を用いた実証実験を通じて、持続可能なまちづくりの推進に貢献してまいります。

また、世界5地域でのマーケティング活動の効率化に向け、情報システム基盤の導入・稼働を展開し、それぞれの市場環境に応じてユーザーの満足度をより高いレベルで実現させる取り組みを進めてまいりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は20,307百万円（前年同四半期比+1,369百万円、7.2%増）となりました。利益については、原材料価格の高騰や輸送コストなどの営業費用の増加により、営業利益は45百万円（前年同四半期比△702百万円、93.9%減）、経常利益は456百万円（前年同四半期比△365百万円、44.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は土地の売却益もあり629百万円（前年同四半期比+168百万円36.6%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### (日本)

売上高は11,387百万円（前年同四半期比△156百万円、1.4%減）、セグメント利益（営業利益）は1,762百万円（前年同四半期比△461百万円、20.7%減）となりました。

工場向けや鉄道車両向けの売上は伸長しましたが、空港施設向けや減災・防災市場向けの売上が減少し、セグメント全体での売上高は減少しました。

売上高の減少に加え、原材料価格の高騰や輸送コストなどの営業費用の増加もあり、セグメント利益は減少しました。

#### (アジア・パシフィック)

売上高は4,172百万円（前年同四半期比+986百万円、31.0%増）、セグメント利益（営業利益）は648百万円（前年同四半期比+139百万円、27.4%増）となりました。

インドネシアを中心としたイスラム圏においては、ラマダン需要の取り込みなどにより宗教市場向けの販売が伸長しました。また、タイやマレーシアでは商業施設への納入が進んだことにより、セグメント全体の売上高は増加し、セグメント利益は増加しました。

#### (欧州・中東・アフリカ)

売上高は2,586百万円（前年同四半期比+433百万円、20.1%増）、セグメント利益（営業利益）は215百万円（前年同四半期比△75百万円、25.8%減）となりました。

イギリスでは複合オフィスビル、南アフリカでは工場への納入が進み、中東での販売も堅調に推移したことにより、セグメント全体の売上高は増加しました。

売上高は増加しましたが、営業費用の増加により、セグメント利益は減少しました。

(アメリカ)

売上高は1,155百万円(前年同四半期比+72百万円、6.7%増)、セグメント利益(営業利益)は△10百万円(前年同四半期比△108百万円)となりました。

アメリカではコンテナ不足などの影響による商品供給遅延により販売が減少し、カナダでは教育市場向け販売の減少などがありましたが、為替の影響もあり、セグメント全体の売上高は増加しました。

売上高は増加しましたが、営業費用の増加により、セグメント利益は減少しました。

(中国・東アジア)

売上高は1,004百万円(前年同四半期比+32百万円、3.4%増)、セグメント利益(営業利益)は87百万円(前年同四半期比△43百万円、33.2%減)となりました。

中国では新型コロナウイルス感染症の再拡大によるロックダウンの影響により売上は減少しましたが、台湾では大型スポーツ施設や半導体を中心とした工場向けの納入が進んだことなどにより売上は増加しました。為替の影響もあり、セグメント全体の売上高は増加しました。

売上高は増加しましたが、営業費用の増加により、セグメント利益は減少しました。

## (2) 財政状態に関する説明

### ① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は63,065百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,377百万円の増加となりました。資産の部は、投資有価証券の評価替えによる減少などありましたが、棚卸資産の増加などにより増加しました。負債及び純資産の部は、為替換算調整勘定の増加などにより増加しました。

### ② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、営業活動では748百万円の資金の減少、投資活動では1,301百万円の資金の減少、財務活動では526百万円の資金の減少となり、これらに加え現金及び現金同等物に係る換算差額により前連結会計年度末と比べ1,509百万円減少し、15,755百万円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

税金等調整前四半期純利益979百万円、減価償却費714百万円などがあったものの、棚卸資産の増加額1,904百万円、法人税等の支払額378百万円などにより、営業活動による資金の減少は748百万円となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

定期預金の預入による支出1,247百万円などにより、投資活動による資金の減少は1,301百万円となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

配当金の支払額324百万円、ファイナンス・リース債務の返済による支出185百万円などにより、財務活動による資金の減少は526百万円となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の通期の業績予想につきましては、「2022年3月期決算短信」にて公表しております当初予想から変更していません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	17,910	17,435
受取手形、売掛金及び契約資産	9,149	8,887
商品及び製品	6,931	8,905
仕掛品	973	1,195
原材料及び貯蔵品	4,718	5,556
その他	804	921
貸倒引当金	△77	△66
流動資産合計	40,410	42,834
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	6,190	6,091
その他	4,096	4,513
有形固定資産合計	10,287	10,605
無形固定資産	1,709	1,993
投資その他の資産		
投資有価証券	7,230	6,479
その他	1,051	1,153
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	8,280	7,631
固定資産合計	20,277	20,230
資産合計	60,688	63,065
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,827	4,127
短期借入金	2,161	2,456
未払法人税等	384	398
引当金	188	296
その他	2,503	2,283
流動負債合計	9,065	9,561
固定負債		
退職給付に係る負債	2,558	2,538
その他	2,124	2,026
固定負債合計	4,683	4,564
負債合計	13,749	14,126
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	5,279	5,279
資本剰余金	5,065	5,068
利益剰余金	31,618	31,922
自己株式	△1,352	△1,339
株主資本合計	40,611	40,931
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,426	3,907
為替換算調整勘定	△306	1,463
退職給付に係る調整累計額	△12	△21
その他の包括利益累計額合計	4,108	5,350
非支配株主持分	2,219	2,657
純資産合計	46,939	48,939
負債純資産合計	60,688	63,065

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	18,937	20,307
売上原価	10,823	12,470
売上総利益	8,114	7,836
販売費及び一般管理費	7,365	7,790
営業利益	748	45
営業外収益		
受取利息	7	9
受取配当金	51	57
為替差益	—	270
持分法による投資利益	2	0
その他	64	103
営業外収益合計	126	440
営業外費用		
支払利息	21	26
為替差損	23	—
その他	7	3
営業外費用合計	52	29
経常利益	822	456
特別利益		
土地売却益	—	522
為替換算調整勘定取崩益	19	—
特別利益合計	19	522
税金等調整前四半期純利益	841	979
法人税等	298	247
四半期純利益	543	732
非支配株主に帰属する四半期純利益	82	103
親会社株主に帰属する四半期純利益	460	629

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	543	732
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	952	△519
為替換算調整勘定	784	2,245
持分法適用会社に対する持分相当額	0	0
退職給付に係る調整額	△12	△7
その他の包括利益合計	1,724	1,718
四半期包括利益	2,267	2,450
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,091	1,870
非支配株主に係る四半期包括利益	175	579



## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	841	979
減価償却費	699	714
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△21	△87
受取利息及び受取配当金	△59	△66
為替差損益 (△は益)	△47	23
持分法による投資損益 (△は益)	△2	△0
支払利息	21	26
為替換算調整勘定取崩益	△19	—
固定資産売却損益 (△は益)	—	△522
売上債権の増減額 (△は増加)	1,089	592
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△173	△1,904
仕入債務の増減額 (△は減少)	69	84
未払金の増減額 (△は減少)	△509	△110
その他	186	△133
小計	2,076	△404
利息及び配当金の受取額	59	64
利息の支払額	△20	△29
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△178	△378
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,937	△748
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△874	△1,247
定期預金の払戻による収入	331	345
有形固定資産の取得による支出	△124	△379
有形固定資産の売却による収入	0	490
無形固定資産の取得による支出	△96	△488
その他	△12	△21
投資活動によるキャッシュ・フロー	△776	△1,301
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	37	93
自己株式の取得による支出	△0	△0
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△251	△185
配当金の支払額	△324	△324
非支配株主への配当金の支払額	△98	△109
非支配株主への払戻による支出	△142	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△779	△526
現金及び現金同等物に係る換算差額	418	1,067
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	800	△1,509
現金及び現金同等物の期首残高	16,268	17,264
現金及び現金同等物の四半期末残高	17,069	15,755

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

○税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

## I 前第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注)1	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)2
	日本	アジア・パ シフィック	欧州・中東 ・アフリカ	アメリカ	中国・ 東アジア	計		
売上高								
外部顧客への売上高	11,543	3,186	2,153	1,082	971	18,937	—	18,937
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,603	50	9	7	13	1,683	△1,683	—
計	13,147	3,237	2,162	1,089	984	20,621	△1,683	18,937
セグメント利益又は 損失(△)	2,224	508	290	98	130	3,252	△2,503	748

(注) 1. セグメント利益の調整額△2,503百万円には、セグメント間取引消去20百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△2,524百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない本部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第2四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注)1	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)2
	日本	アジア・パ シフィック	欧州・中東 ・アフリカ	アメリカ	中国・ 東アジア	計		
売上高								
外部顧客への売上高	11,387	4,172	2,586	1,155	1,004	20,307	—	20,307
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,335	68	11	5	16	2,437	△2,437	—
計	13,723	4,241	2,598	1,161	1,021	22,744	△2,437	20,307
セグメント利益又は 損失(△)	1,762	648	215	△10	87	2,703	△2,657	45

(注) 1. セグメント利益の調整額△2,657百万円には、セグメント間取引消去△9百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△2,648百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない本部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。